

福島第一原子力発電所 労働環境の改善への取組み

2016年2月3日

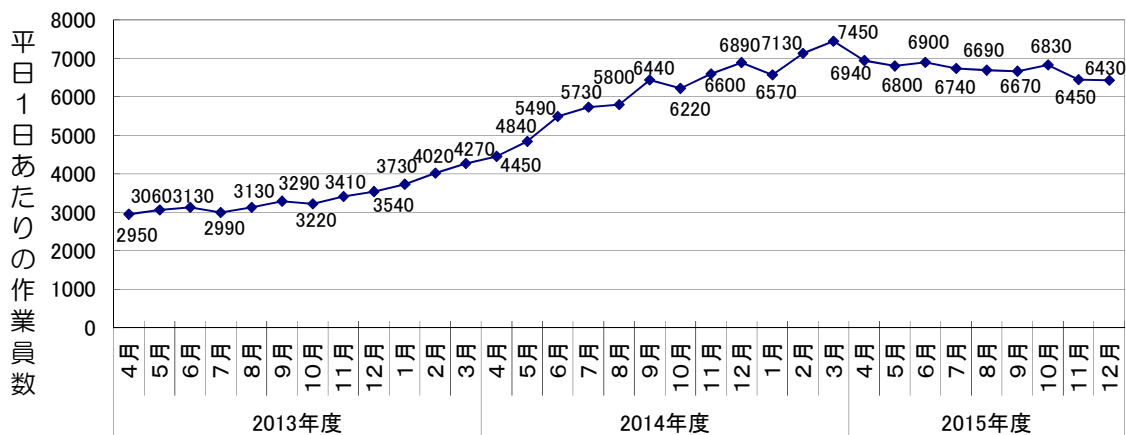
東京電力株式会社

1. 作業員数と被ばく管理、災害発生状況

- 福島第一原子力発電所で作業されている協力企業の方々が、安心して働ける環境作りを目指し、当社として職場の労働環境の改善に取り組んでいます。

作業員数の推移

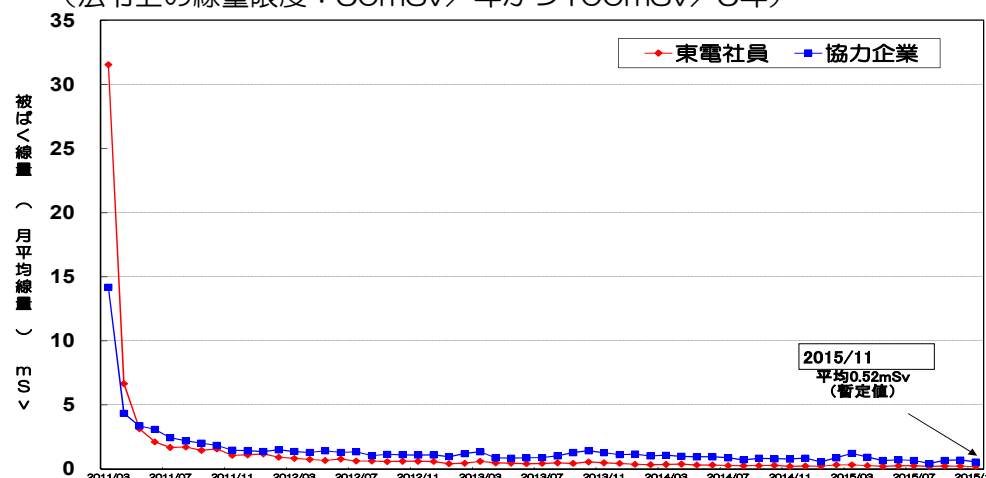
- 下記のグラフは、平日1日あたりの作業員数（実績値）の推移です。12月の作業に想定される人数（協力企業作業員及び東電社員）は、平日1日あたり約6,600人程度と想定しています。



2013年度以降各月の平日1日あたりの平均作業員数（実績値）の推移

被ばく管理状況

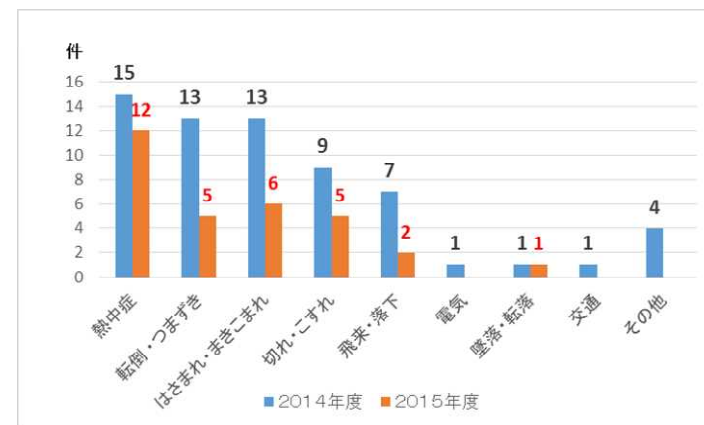
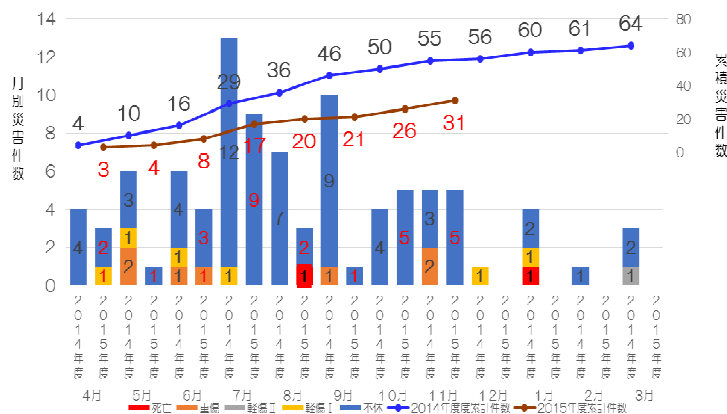
- 線量低減対策や作業毎の被ばく線量予測に基づいた作業員の配置、配置変更により、作業員の平均被ばく線量は1mSv/月程度に抑えられています
- 大半の作業員の被ばく線量は、年間の線量限度に対して低く抑えられていますが、更なる低減に努めています。
(法令上の線量限度：50mSv/年かつ100mSv/5年)



作業員の月別個人被ばく線量の推移（月平均線量）

災害発生状況

- 2015年11月末現在で、31件の作業災害が発生しています。昨年2014年11月末は55件発生しており比較すると44%減となりました。
- 2015年上半期は災害発生は低く抑える（54%減）事が出来ましたが、8月死亡災害が発生しています。また、下半期では10月に5件、11月に5件発生しています。



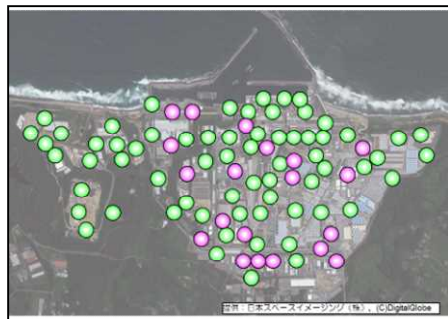
2. 現場環境の改善状況

一般作業服着用可能エリアの拡大

- これまでも、現場の作業環境を改善する一環として、一般作業服の着用エリアの拡張を行ってまいりました。
- 2015年12月8日から、新たに雑固体廃棄物焼却施設を一般作業服着用可能エリアに設定、さらに免震重要棟および各企業棟周辺の一般作業服着用可能エリアを拡張し、入退域管理棟から各企業棟の駐車場またはバス停から各建物までを一般作業服で移動できるようになりました。

構内線量率データのリアルタイム表示

- 福島第一原子力発電所の構内で働く作業員の方が、実際に作業する現場の線量率を見ることができるよう、現場に線量率モニタを設置し、リアルタイムで値を表示しています。（2015年4月から20台運用、2016年1月より66台追加（計86台））
- また、現場に出発する前に作業する場所も含めた構内の線量率を見られるよう、免震重要棟及び入退域管理棟で作業員の方が見やすい場所に大型ディスプレイを設置しました。
- 今後、連続ダストモニタの測定値についても、順次、大型ディスプレイで表示させていく予定です。（1月現在、8箇所。2月末までに全10箇所を表示予定）



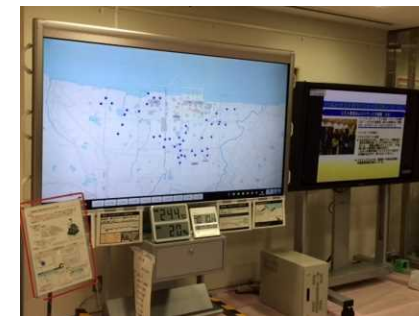
線量率モニタ設置場所（2016年1月現在）



現場線量率モニタの設置状況



構内線量率データのリアルタイム表示



免震重要棟内のディスプレイ



入退域管理棟内のディスプレイ